
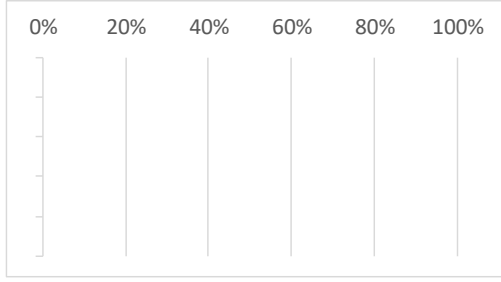


長期モニタリング計画 評価項目の評価シート (案)

評価項目	I 特異な生態系の生産性が維持されていること。				
評価項目選定理由	世界自然遺産として登録された基準(クライテリア(ix)生態系)である。				
評価案の作成主体	海域ワーキンググループ				
評価年月	2021年2月 (予定)				
評価対象期間	2012年~2018年 (ただし一部のデータは2011年以前のものも使用)				
総評	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid green; padding: 10px; text-align: center; margin-right: 20px;"> <p>評価値</p> <h1 style="margin: 0;">4.2</h1> <p>問題のない状態</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p><各モニタリング結果の評価分布></p> <p>良好 0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>5 4 3 2 1</p> <p>要改善</p> </div> </div>				4.20
	<p><問題のない状態></p> <p>一部のモニタリングが未実施であり改善が必要だが、主要なモニタリング結果からは、生態系の生産性に関する大きな問題は認められない。</p>				
対応するモニタリング項目とその評価	No.	モニタリング項目	評価基準 (概要)	個別評価	数値化
	1	衛星リモートセンシングによる水温・クロロフィルaの観測	長期的に見たときの変動幅を逸脱していないか	○	1
	3	アザラシの生息状況の調査	アザラシに絶滅のおそれが生じていないか	●	5
	4	海域の生物相、及び、生息状況(浅海域定期調査)	遺産登録時の生息状況・多様性が維持されているか	●	5
	5	浅海域における貝類定量調査	遺産登録時の生息状況・多様性が維持されているか	●	5
	④	スケトウダラの資源状態の把握と評価(TAC設定に係る調査)	登録時の資源状態を下回っていないか	●	5
	(基礎情報・参考情報に関するモニタリング項目の実施状況) ○：計画どおり実施、△：一部実施、×：未実施				
	2	海洋観測ブイによる水温の定点観測		○	
	①	航空機、人工衛星等による海水分布状況観測		○	
	②	アイヌアルジーの生物学的調査		×	
	③	「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握		○	
⑤	スケトウダラ産卵量調査		○		
⑥	トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性		○		
⑪	シャチの生息状況の調査				

<p>評価の理由等</p>	<p>(個別モニタリング項目の評価結果に係る背景、評価の理由のほか、評価プロセス等、評価結果に係る特記事項を簡潔に記載。)</p>
<p>遺産地域の管理施策に関する特記事項・課題等</p>	<p>(評価項目の評価結果に密接に関連する管理施策として、特筆すべき事項があれば記載。また、管理施策の現状等を踏まえた今後の遺産管理上の課題について記載)</p>
<p>今後の遺産地域の管理の方向性に関する意見</p>	<p>(調査手法等へのコメントではなく、上記課題を踏まえた「遺産地域の管理の方向性」等についての助言等があれば、適宜記載。)</p> <p>(3 アザラシの生息状況の調査) これまで、春季(出産期)の特に羅臼海域におけるモニタリングを船舶で、そしてオホーツク海域をヘリで行ってきたが、流水の減少に伴い、流水の衰退時期(晩冬～早春)にモニタリング時期を前倒しにし、船舶とドローンを使用して調査をすべきである。さらに、混獲状況の調査地域を広げ、駆除や混獲個体の食性把握をする等の副次的な情報を蓄積していくことが重要と考えられる。また、ゴマフアザラシは海洋環境によって来遊状況などが変化するため、知床海域の情報だけでなく、北海道全域でのゴマフアザラシの来遊状況やロシア海域の情報も収集して、評価を行うことが必要である。</p> <p>(4 海域の生物相、及び、生息状況(浅海域定期調査)) 本調査は、10年に一度の頻度のモニタリングで妥当である。ただし、調査実施の際には、季節変化を考慮しない評価は困難であるため、春、夏、秋の3季を含める必要がある。 また、出現種を記録するだけでなく、代表種の選定や調査手法を統一するなどして定量的な記録を残すことが望ましい。</p> <p>(5 浅海域における貝類定量調査) 本調査(4海岸×3季)は5年に一度の頻度の実施で妥当である。ただし、気温・水温や流水量等の漸次的な変化が海岸域に及ぼす影響を推察する上で、知床の潮間帯の貝類を含む生物相の変化を記録する意義は大きい。したがって、調査規模を縮小したうえで、毎年実施することが望ましい。また、研究者に依存しないモニタリング方法の構築も検討の余地がある。</p> <p>(④ スケトウダラの資源状態の把握と評価(TAC設定に係る調査)) 安定した漁業を持続的に維持していくために、漁業者による自主規制など資源保護への取り組みの協力も得ていく一方で、資源のモニタリングを継続していく必要がある。産卵期以外に、魚価の安い若齢魚や産卵成熟前の個体の漁獲量が増加していた時期もあったことから、このような変化を引き起こした要因について検討するとともに、漁期や漁場の変化について環境モニタリングの結果と合わせて今後も注視していく必要がある。 また根室海峡全体におけるスケトウダラ資源の保全のためには、ロシアとの学術的観点からの交流を含め、国後島側などでのロシア漁船による漁獲の状況などを含め、北海道本島側と国後島側双方における漁獲量などの漁業情報や資源状況などについて、日露両国における情報の共有化を図っていくことが必要である。</p>

評価項目	II 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること。				
評価項目選定理由	世界自然遺産として登録された基準（クライテリア（ix）生態系）である。				
評価案の作成主体	事務局とりまとめ（海域WG、エゾシカ・ヒグマWG、河川工作物AP会議）				
評価年月	2021年2月（予定）				
評価対象期間					
総評	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid yellow; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>評価値</p> <p style="text-align: center;">-</p> <p>〇〇状態</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>良好</p>  <p>要改善</p> </div> <div style="margin-left: 20px;"> <p><各モニタリング結果の評価分布></p>  </div> </div> <p><〇〇状態></p>				
対応するモニタリング項目とその評価	No.	モニタリング項目	評価基準（概要）	個別評価	数値化
	4	海域の生物相、及び、生息状況（浅海域定期調査）	遺産登録時の生息状況・多様性が維持されているか		5
	5	浅海域における貝類定量調査	遺産登録時の生息状況・多様性が維持されているか		5
	6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査	遺産登録時の営巣数が維持されているか		1
	16	知床半島のヒグマ個体群	ヒグマ個体数が顕著な減少傾向となっていないか等		5
	17	河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数モニタリング	サケ類が持続的に再生産しているか、河川工作物による遡上障害が回避されているか		
	22	海ワシ類の越冬個体数の調査	遺産登録時の生息状況が維持されているか		
	⑧	オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング	遺産登録時のつがい数等が維持されているか		5
	（基礎情報・参考情報に関するモニタリング項目の実施状況） ○：計画どおり実施，△：一部実施，×：未実施				
⑨	全道での海ワシ類の越冬個体数の調査		○		

<p>評価の理由等</p>	<p>(個別モニタリング項目の評価結果に係る背景、評価の理由のほか、評価プロセス等、評価結果に係る特記事項を簡潔に記載。)</p>
<p>遺産地域の管理施策に関する特記事項・課題等</p>	<p>(評価項目の評価結果に密接に関連する管理施策として、特筆すべき事項があれば記載。また、管理施策の現状等を踏まえた今後の遺産管理上の課題について記載)</p>
<p>今後の遺産地域の管理の方向性に関する意見</p>	<p>(調査手法等へのコメントではなく、上記課題を踏まえた「遺産地域の管理の方向性」等についての助言等があれば、適宜記載。)</p>

評価項目	Ⅲ 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。				
評価項目選定理由	世界自然遺産として登録された基準(クライテリア(x)生物多様性)である。				
評価案の作成主体	事務局とりまとめ(エゾシカ・ヒグマWG、海域WG、河川工作物AP会議)				
評価年月	2021年2月(予定)				
評価対象期間					
総評	<p>＜各モニタリング結果の評価分布＞</p> <p>評価値: 5 (良好)</p> <p>〇〇状態: 良好</p> <p>要改善</p>				
	＜〇〇状態＞				
対応するモニタリング項目とその評価	No.	モニタリング項目	評価基準(概要)	個別評価	数値化
	3	アザラシの生息状況の調査	アザラシ絶滅のおそれが生じていないか		5
	4	海域の生物相、及び、生息状況(浅海域定期調査)	遺産登録時の生息状況・多様性が維持されているか		5
	6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査	遺産登録時の営巣数が維持されているか		1
	8	知床半島全域における植生の推移の把握(森林植生/海岸植生/高山植生)	1980年代以前の状態に回復または維持しているか		2
	9	希少植物(シレットコスミレ)の生育・分布状況の把握	希少植物の個体群が維持されているか		5
	11	陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況の把握	遺産登録時と比べて多様性の低下が生じていないか等		4
	12	陸生鳥類生息状況の把握	遺産登録時と比べて多様性の低下が生じていないか		4
	13	中小型哺乳類の生息状況調査(外来種侵入状況調査含む)	遺産登録時と比べて多様性の低下が生じていないか		1
	14	広域植生図の作成	高層湿原・森林限界・ハイマツ帯の分布変化が生じていないか等		1
	16	知床半島のヒグマ個体群	ヒグマ個体数が顕著な減少傾向となっていないか等		5
	18	淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況(外来種侵入状況調査含む)	資源量が維持されているか等		
	23	シマフクロウのつがい数、標識幼鳥数、死亡・傷病個体と原因調査	遺産登録時のつがい数等が維持されているか		
	⑧	オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング	遺産登録時のつがい数等が維持されているか		5
	(基礎情報・参考情報に関するモニタリング項目の実施状況) ○: 計画どおり実施, △: 一部実施, ×: 未実施				
24	年次報告書作成による事業実施状況の把握				
25	年次報告書作成等による社会環境の把握				
③	「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握				
⑪	シャチの生息状況の調査				

<p>評価の理由等</p>	<p>(個別モニタリング項目の評価結果に係る背景、評価の理由のほか、評価プロセス等、評価結果に係る特記事項を簡潔に記載。)</p> <p>(8) 各植生の組成や多様度は大きな変化がなく、森林植生や一部の海岸植生はエゾシカの影響による劣化状態のままとなっている。</p> <p>(9) シレットコスミレは大きな変化ではないが減少が見られるため、引き続きモニタリングする。</p> <p>(11) 外来種セイヨウオオマルハナバチは自然環境でも確認され定着しているが、顕著な増加は見られていない。</p> <p>(12) 鳥類の種組成には大きな変化は見られていない。</p> <p>(13) 外来種(アライグマ)の今後の分布拡大に注意が必要。</p> <p>(14) 広域植生図については、今後整備・解析を進める。</p> <p>その他の主要なモニタリング結果からは、生物多様性への大きな問題は認められない。</p>
<p>遺産地域の管理施策に関する特記事項・課題等</p>	<p>(評価項目の評価結果に密接に関連する管理施策として、特筆すべき事項があれば記載。また、管理施策の現状等を踏まえた今後の遺産管理上の課題について記載)</p>
<p>今後の遺産地域の管理の方向性に関する意見</p>	<p>(調査手法等へのコメントではなく、上記課題を踏まえた「遺産地域の管理の方向性」等についての助言等があれば、適宜記載。)</p>

評価項目	IV 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること。					
評価項目選定理由	ユネスコ/IUCNの調査報告書において勧告されている。(勧告4、6)					
評価案の作成主体	海域ワーキンググループ(河川工作物AP会議と一部調整)					
評価年月	2021年2月(予定)					
評価対象期間						
総評	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid yellow; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>評価値</p> <p style="text-align: center;">—</p> <p>〇〇状態</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>良好</p>  <p>要改善</p> </div> <div style="margin-left: 20px;"> <p><各モニタリング結果の評価分布></p>  </div> </div> <p><〇〇状態></p>					
対応するモニタリング項目とその評価	No.	モニタリング項目	評価基準(概要)	個別評価	数値化	
	1	衛星リモートセンシングによる水温・クロロフィルaの観測	長期的に見たときの変動幅を逸脱していないか	○	1	
	3	アザラシの生息状況の調査	アザラシに絶滅のおそれが生じていないか	△	5	
	6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査	遺産登録時の営巣数が維持されているか	△	1	
	17	河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数モニタリング	サケ類が持続的に再生産しているか、河川工作物による遡上障害が回避されているか			
	④	スケトウダラの資源状態の把握と評価(TAC設定に係る調査)	遺産登録時の資源状態を下回っていないか	△	5	
	⑩	海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析	基準値以下の濃度か	△	5	
	(基礎情報・参考情報に関するモニタリング項目の実施状況) ○: 計画どおり実施, △: 一部実施, ×: 未実施					
	2	海洋観測ブイによる水温の定点観測		○		
	①	航空機、人工衛星等による海水分布状況観測		○		
	②	アйсアルジーの生物学的調査		×		
	③	「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握		○		
	⑤	スケトウダラ産卵量調査		○		
	⑥	トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性		○		
⑦	トドの被害実態調査		○			
⑪	シャチの生息状況の調査					


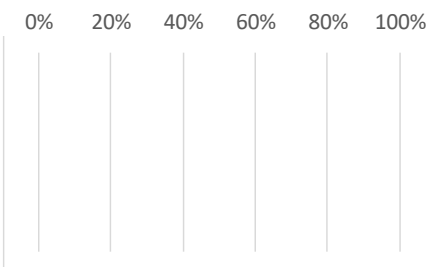
<p>評価の理由等</p>	<p>(個別モニタリング項目の評価結果に係る背景、評価の理由のほか、評価プロセス等、評価結果に係る特記事項を簡潔に記載。)</p>
<p>遺産地域の管理施策に関する特記事項・課題等</p>	<p>(評価項目の評価結果に密接に関連する管理施策として、特筆すべき事項があれば記載。また、管理施策の現状等を踏まえた今後の遺産管理上の課題について記載)</p>
<p>今後の遺産地域の管理の方向性に関する意見</p>	<p>(調査手法等へのコメントではなく、上記課題を踏まえた「遺産地域の管理の方向性」等についての助言等があれば、適宜記載。)</p>

評価項目	V 河川工作物による影響が軽減されるなど、サケ科魚類の再生産が可能な河川生態系が維持されていること。				
評価項目選定理由	ユネスコ/IUCNの調査報告書において勧告されている。(勧告7、9)				
評価案の作成主体	河川工作物AP会議				
評価年月	2021年2月(予定)				
評価対象期間					
総評	<p>＜各モニタリング結果の評価分布＞</p> <p>評価値</p> <p>良好</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>要改善</p> <p>○○状態</p>				
	＜注視すべき状態＞				
対応するモニタリング項目とその評価	No.	モニタリング項目	評価基準(概要)	個別評価	数値化
	17	河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数モニタリング	サケ類が持続的に再生産しているか、河川工作物による遡上障害が回避されているか		
18	淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオシヨロコマの生息状況(外来種侵入状況調査含む)	資源量が維持されているか、外来種の生息は抑えられているか、夏季水温が上昇傾向にないか			

<p>評価の理由等</p>	<p>(個別モニタリング項目の評価結果に係る背景、評価の理由のほか、評価プロセス等、評価結果に係る特記事項を簡潔に記載。)</p>
<p>遺産地域の管理施策に関する特記事項・課題等</p>	<p>(評価項目の評価結果に密接に関連する管理施策として、特筆すべき事項があれば記載。また、管理施策の現状等を踏まえた今後の遺産管理上の課題について記載)</p>
<p>今後の遺産地域の管理の方向性に関する意見</p>	<p>(調査手法等へのコメントではなく、上記課題を踏まえた「遺産地域の管理の方向性」等についての助言等があれば、適宜記載。)</p>

評価項目	VI エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと。																
評価項目選定理由	ユネスコ/IUCNの調査報告書において勧告されている。(勧告10)																
評価案の作成主体	エゾシカ・ヒグマワーキンググループ																
評価年月	2021年2月(予定)																
評価対象期間	2012年～2019年(ただし一部のデータは2011年以前のものも使用)																
総評	<p>評価値 3.2 注視すべき状態</p> <p>良好 要改善</p> <p><各モニタリング結果の評価分布></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価値</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>				評価値	割合	5	0%	4	40%	3	40%	2	20%	1	0%	3.20
	評価値	割合															
5	0%																
4	40%																
3	40%																
2	20%																
1	0%																
<p><注視すべき状態> 一部地域でエゾシカの密度低下や植生回復の傾向が確認されているが、遺産地域の生態系へのエゾシカの影響は引き続き生じている。</p>																	
対応するモニタリング項目とその評価	No.	モニタリング項目	評価基準(概要)	個別評価	数値化												
	7	エゾシカ個体数調整実施地区における植生変化の把握(森林植生/草原植生)	1980年代以前の状態に回復しているか		3												
	8	知床半島全域における植生の推移の把握(森林植生/海岸植生/高山植生)	1980年代以前の状態に回復または維持しているか		2												
	10	エゾシカ主要越冬地における生息状況の把握(航空カウント/地上カウント)	発見密度が一定水準以下となっているか		3												
	11	陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況の把握	遺産登録時と比べて多様性の低下が生じていないか等		4												
	12	陸生鳥類生息状況の把握	遺産登録時と比べて多様性の低下が生じていないか		4												

<p>評価の理由等</p>	<p>(個別モニタリング項目の評価結果に係る背景、評価の理由のほか、評価プロセス等、評価結果に係る特記事項を簡潔に記載。)</p> <p>(7) 個体数調整をした知床岬地区においては、草原においてイネ科草本・ササ類の高さ・現存量が回復し、開花種も増加している。森林では植生や稚樹群の回復は遅れている。</p> <p>(8) 各植生の組成や多様度は大きな変化がなく、森林植生や一部の海岸植生はエゾシカの影響による劣化状態のままとなっている。</p> <p>(10) 個体数調整を実施している地区では、エゾシカの発見頭数や生息密度が継続的に減少し、捕獲による抑制効果が認められている。</p> <p>(11) 地表性昆虫ではエゾシカ高密度地区における指標種の相対的増加が見られたが、長舌種マルハナバチ類の増加は見られなかった。</p> <p>(12) 知床岬地区において森林性・草原性の指標種の生息密度が回復していた。</p>
<p>遺産地域の管理施策に関する特記事項・課題等</p>	<p>(評価項目の評価結果に密接に関連する管理施策として、特筆すべき事項があれば記載。また、管理施策の現状等を踏まえた今後の遺産管理上の課題について記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エゾシカの個体数調整による効果は、特に知床岬の草原において顕著に見られ、他地区でも部分的な回復効果が見られているため、管理の方向性は評価される。ただ2016年前後以降には回復の速度が減少しているため、引き続き調整をする必要がある。 ・地表性昆虫や鳥類においても回復の傾向が見られるため、管理の方向性は評価される。 ・管理による植生への負の影響は特にみられていない。 ・シカの捕獲について、低密度状態になったことで困難になってきており、手法について検討しなおす必要がある。
<p>今後の遺産地域の管理の方向性に関する意見</p>	<p>(調査手法等へのコメントではなく、上記課題を踏まえた「遺産地域の管理の方向性」等についての助言等があれば、適宜記載。)</p>

評価項目	VII レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。					
評価項目選定理由	知床世界自然遺産地域管理計画に記載されている。					
評価案の作成主体	適正利用・エコツーリズムWG（海域WG、エゾシカ・ヒグマWGと一部調整）					
評価年月	2021年2月（予定）					
評価対象期間						
総評	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid yellow; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>評価値</p> <p style="text-align: center;">-</p> <p>〇〇状態</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>良好</p>  <p>要改善</p> </div> <div style="margin-left: 20px;"> <p><各モニタリング結果の評価分布></p>  </div> </div> <p><〇〇状態></p>					
対応するモニタリング項目とその評価	No.	モニタリング項目	評価基準（概要）	個別評価	数値化	
	6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査	遺産登録時の営巣数が維持されているか		1	
	15	ヒグマによる人為的活動への被害状況	ヒグマによる人身被害を起こさないこと、危険事例、農業被害の発生が一定水準以下になっているか		1	
	19	適正利用に向けた管理と取組	「知床エコツーリズム戦略9. 具体的方策」を実現するための管理や取組が行われているか			
	20	適正な利用・エコツーリズムの推進	「知床エコツーリズム戦略5. 基本方針（1）、（2）」に基づき、適正な利用およびエコツーリズムの推進が行われているか			
	（基礎情報・参考情報に関するモニタリング項目の実施状況） ○：計画どおり実施，△：一部実施，×：未実施					
	21	利用者数の変化		○		
	24	年次報告書作成による事業実施状況の把握		○		
25	年次報告書作成等による社会環境の把握		○			

<p>評価の理由等</p>	<p>(個別モニタリング項目の評価結果に係る背景、評価の理由のほか、評価プロセス等、評価結果に係る特記事項を簡潔に記載。)</p>
<p>遺産地域の管理施策に関する特記事項・課題等</p>	<p>(評価項目の評価結果に密接に関連する管理施策として、特筆すべき事項があれば記載。また、管理施策の現状等を踏まえた今後の遺産管理上の課題について記載)</p>
<p>今後の遺産地域の管理の方向性に関する意見</p>	<p>(調査手法等へのコメントではなく、上記課題を踏まえた「遺産地域の管理の方向性」等についての助言等があれば、適宜記載。)</p>

評価項目	Ⅷ 気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること。				
評価項目選定理由	知床世界自然遺産地域管理計画に記載されている。				
評価案の作成主体	事務局とりまとめ（エゾシカ・ヒグマWG、海域WG、河川工作物AP会議）				
評価年月	2021年2月（予定）				
評価対象期間					
総評	<p>＜各モニタリング結果の評価分布＞</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>良好</p> <p>要改善</p>				
	＜○○状態＞				
対応するモニタリング項目とその評価	No.	モニタリング項目	評価基準（概要）	個別評価	数値化
	1	衛星リモートセンシングによる水温・クロロフィルaの観測	長期的に見たときの変動幅を逸脱していないか	○	1
	3	アザラシの生息状況の調査	アザラシに絶滅のおそれが生じていないか	⊖	5
	8	知床半島全域における植生の推移の把握（森林植生/海岸植生/高山植生）	1980年代以前の状態に回復または維持しているか	⊖	5
	9	希少植物（シレットコスミレ）の生育・分布状況の把握	希少植物の個体群が維持されているか	⊖	5
	14	広域植生図の作成	高層湿原・森林限界・ハイマツ帯の分布変化が生じてないか等	○	1
	18	淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオシヨロコマの生息状況（外来種侵入状況調査含む）	資源量が維持されているか、外来種の生息は抑えられているか、夏季水温が上昇傾向にないか		
	26	気象観測	長期的に見たときの変動幅を逸脱していないか		
	（基礎情報・参考情報に関するモニタリング状況）				
	2	海洋観測ブイによる水温の定点観測		○	
①	航空機、人工衛星等による海水分布状況観測		○		
⑥	トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性		○		
⑪	シャチの生息状況の調査				

<p>評価の理由等</p>	<p>(個別モニタリング項目の評価結果に係る背景、評価の理由のほか、評価プロセス等、評価結果に係る特記事項を簡潔に記載。)</p> <p>(8) 高山植生の組成や多様度は大きな変化がない。</p> <p>(9) シレットコスミレは大きな変化ではないが減少が見られるため、引き続きモニタリングする。</p> <p>(14) 広域植生図については、2020年初時点で整備されていないため、今後整備・解析を進める。</p>
<p>遺産地域の管理施策に関する特記事項・課題等</p>	<p>(評価項目の評価結果に密接に関連する管理施策として、特筆すべき事項があれば記載。また、管理施策の現状等を踏まえた今後の遺産管理上の課題について記載)</p>
<p>今後の遺産地域の管理の方向性に関する意見</p>	<p>(調査手法等へのコメントではなく、上記課題を踏まえた「遺産地域の管理の方向性」等についての助言等があれば、適宜記載。)</p>